

金融機能強化法に基づき資本参加を行った金融機関における  
「経営強化計画の履行状況（平成 22 年 9 月期）」の概要

金融機関名	資本参加	
	時 期	金 額
改正金融機能強化法に基づき資本参加を行った金融機関		
北洋銀行	21年 3月31日	1,000億円
福邦銀行		60億円
南日本銀行		150億円
みちのく銀行	21年 9月30日	200億円
きらやか銀行		200億円
第三銀行		300億円
山梨県民信用組合		450億円
東和銀行	21年12月28日	350億円
高知銀行		150億円
北都銀行	22年 3月31日	100億円
宮崎太陽銀行		130億円
旧金融機能強化法に基づき資本参加を行った金融機関		
紀陽銀行	18年11月13日	315億円
豊和銀行	18年12月18日	90億円

（注）山梨県民信用組合は全国信用協同組合連合会からの信託受益権の買取り、北都銀行はフィデアホールディングス（持株会社）が発行する優先株式の引受け、紀陽銀行は紀陽ホールディングス（持株会社）が発行する優先株式の引受けにより、それぞれ資本参加。

# 改正金融機能強化法に基づく経営強化計画の履行状況（平成22年9月期）の概要

## 1. 経営改善の目標

### 1) コア業務純益 又は コア業務純益ROA（選択制）

（単位：億円、％）

	計画始期の水準	22年9月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)
		計画	実績			
北 洋	351	186	193	+ 35	+ 6	資金利益が貸出金利息の減少等により計画を下回ったものの、合併・システム統合による経費削減効果により、コア業務純益は計画を上回った。
福 邦	0.26	0.39	0.36	+ 0.10	▲ 0.03	経費の削減に努めたものの、資金需要の低迷による貸出金の伸び悩みや貸出金利回の低下等から、コア業務純益ROAは計画を下回った。
南日本	29	21	17	+ 6	▲ 3	資金利益が貸出金利回の低下により計画を下回ったことや、人件費が外向・転籍の進捗の遅れにより計画を上回ったことから、コア業務純益は計画を下回った。
みちのく	54	28	29	+ 4	+ 1	資金利益が貸出金利息の減少等により計画を下回ったものの、設備関係費用を中心に物件費の削減に努めたことから、コア業務純益は計画を上回った。
きらやか	53	27	22	▲ 8	▲ 4	経費の削減に努めたものの、資金需要の低迷による貸出金の伸び悩みや貸出金利回の低下により貸出金利息が計画を下回ったこと等から、コア業務純益は計画を下回った。
第 三	64	36	38	+ 12	+ 1	資金利益が貸出金利回の低下等により計画を下回ったものの、役務取引等利益が計画を上回ったことや、物件費を中心に経費削減に努めたことから、コア業務純益は計画を上回った。
東 和	56	42	43	+ 31	+ 1	資金利益が貸出金の増加等により計画を上回ったことや、役務取引等利益が投資信託等の販売の増加等により計画を上回ったことから、コア業務純益は計画を上回った。
高 知	22	15	15	+ 8	+ 0	資金利益が貸出金利回の低下等により計画を下回ったものの、物件費を中心に経費の削減に努めたことから、コア業務純益は計画を上回った。
北 都	28	16	20	+ 11	+ 3	資金利益が有価証券利回の上昇等により計画を上回ったことや、プロジェクトチームを中心に経費の削減に取り組み機械保守費等の節減を図ったことから、コア業務純益は計画を上回った。
宮崎太陽	22	12	13	+ 3	+ 0	資金利益が貸出金の減少や有価証券利回の低下等により計画を下回ったものの、保守管理費や事務費等の削減に努めたことから、コア業務純益は計画を上回った。

注) 福邦銀行は「コア業務純益ROA」を、その他の銀行は「コア業務純益」を選択

## 2) 業務粗利益経費率 (OHR)

(単位: %)

	計画始期の水準	22年9月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)
		計画	実績			
北 洋	74.39	52.19	<b>54.33</b>	▲ 20.06	+ 2.14	業務粗利益が資金利益の減少等により計画を下回ったことや、経費が減価償却費や業務委託費の増加により計画を上回ったことから、OHRは計画を上回った。
福 邦	77.87	65.38	<b>63.13</b>	▲ 14.74	▲ 2.25	業務粗利益が資金利益の減少等により計画を下回ったものの、人員の削減、「カイゼン活動」や店舗統合により経費の削減に努めたことから、OHRは計画を下回った。
南日本	274.22	59.57	<b>60.16</b>	▲ 214.06	+ 0.59	資金利益が貸出金利回の低下により計画を下回ったことや、人件費が外向・転籍の進捗の遅れにより計画を上回ったことから、OHRは計画を上回った。
みちのく	95.29	64.65	<b>64.83</b>	▲ 30.46	+ 0.18	経費は設備関係費用を中心に削減に努めたものの、資金利益が計画を下回ったことを主因に業務粗利益が計画を下回ったことから、OHRは計画を上回った。
きらやか	65.21	60.26	<b>60.42</b>	▲ 4.79	+ 0.16	経費の削減に努めたものの、業務粗利益が貸出金利の減少等により計画を下回ったことから、OHRは計画を上回った。
第 三	105.21	64.47	<b>61.17</b>	▲ 44.04	▲ 3.30	業務粗利益が役務取引等利益及び国債等債券関係損益の改善により計画を上回ったことや、物件費を中心に経費の削減に努めたことから、OHRは計画を下回った。
東 和	71.23	71.90	<b>81.74</b>	+ 10.51	+ 9.84	業務粗利益が変動利付国債の前倒し処理に伴う売却損の計上により計画を下回ったことから、OHRは計画を上回った。
高 知	65.40	69.73	<b>66.35</b>	+ 0.95	▲ 3.38	業務粗利益が国債等債券関係損益の改善等により計画を上回ったことや、物件費を中心に経費の削減に努めたことから、OHRは計画を下回った。
北 都	74.63	72.02	<b>68.58</b>	▲ 6.05	▲ 3.44	業務粗利益が資金利益及び国債等債券関係損益の改善により計画を上回ったことから、OHRは計画を下回った。
宮崎太陽	66.83	65.14	<b>62.28</b>	▲ 4.55	▲ 2.86	業務粗利益が国債等債券関係損益の改善等により計画を上回ったことや、保守管理費や事務費等の削減に努めたことから、OHRは計画を下回った。

## 2. 中小企業金融の円滑化の目標

### 1) 中小企業向け貸出残高・比率

(単位:億円、%)

	計画始期の水準	22年9月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)	
		計画	実績				
北 洋	残高	17,427	18,128	<b>18,378</b>	+ 951	+ 250	営業推進体制の強化(医療分野等の専担者の配置等)や取引先の増加(「コア法人」の選定、新規事業先の開拓等)に取り組んだことから、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	24.25	24.95	<b>25.45</b>	+ 1.20	+ 0.50	
福 邦	残高	1,639	1,674	<b>1,576</b>	▲ 63	▲ 97	新規企業の開拓やシェアアップ運動に取り組んだものの、資金需要の低迷や不良債権償却の増加等により、貸出残高・比率ともに計画を下回った。
	比率	36.05	37.39	<b>36.29</b>	+ 0.24	▲ 1.10	
南日本	残高	2,435	2,613	<b>2,698</b>	+ 262	+ 84	緊急保証制度やCRDのスコアリングを活用した融資商品等を活用し、地場産業に対し積極的に融資を行ったこと等から、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	37.45	39.79	<b>39.84</b>	+ 2.39	+ 0.05	
みちのく	残高	4,168	4,222	<b>4,269</b>	+ 101	+ 47	法人営業体制の強化(法人営業課の新設、法人営業担当者の増員)等により新規開拓や既存先の取引深化に積極的に取り組んだこと等から、貸出残高は計画を上回った。預金の増加により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	22.78	22.85	<b>22.19</b>	▲ 0.59	▲ 0.66	
きらやか	残高	4,588	4,650	<b>4,673</b>	+ 85	+ 23	中小規模事業者先全訪問の実施や新規取引先の開拓等に取り組んだこと等から、貸出残高は計画を上回った。個人預金の増加により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	40.26	40.36	<b>37.64</b>	▲ 2.62	▲ 2.72	
第 三	残高	5,595	5,711	<b>5,757</b>	+ 161	+ 45	融資重点推進地域における事業融資基盤の拡充、緊急保証制度の積極的な活用等に取り組んだことから、貸出残高は計画を上回った。その他有価証券評価差額金や預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	32.48	32.51	<b>32.37</b>	▲ 0.11	▲ 0.14	
山梨県民 信組	残高	1,725	1,806	<b>1,788</b>	+ 63	▲ 17	中小企業向け貸出増強運動や事業承継・事業再生のための融資に取り組んだものの、資金需要が低迷したこと等により、貸出残高は計画を下回った。預金の減少により総資産が計画を下回り、貸出比率は計画を上回った。
	比率	38.21	38.43	<b>38.88</b>	+ 0.67	+ 0.45	
東 和	残高	5,292	5,416	<b>5,534</b>	+ 242	+ 118	顧客の実態把握に努める取組みを強化するとともに、担保・保証に過度に依存しない融資に積極的に取り組んだことから、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	30.82	30.97	<b>31.56</b>	+ 0.74	+ 0.59	
高 知	残高	3,437	3,467	<b>3,468</b>	+ 30	+ 0	業種別貸出の推進や営業部門人員の増強等に取り組んだことから、貸出残高は僅かながら計画を上回った。預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	36.81	37.20	<b>37.01</b>	+ 0.20	▲ 0.19	
北 都	残高	2,730	2,742	<b>2,771</b>	+ 41	+ 29	信用保証協会保証付融資の増強や事業性融資基盤の拡充に積極的に取り組んだことから、貸出残高は計画を上回った。預金の増加により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	23.76	23.80	<b>23.63</b>	▲ 0.13	▲ 0.17	
宮崎太陽	残高	2,074	2,078	<b>2,101</b>	+ 27	+ 23	事業先専担者による新規事業先開拓活動や既存事業先との関係強化等に取り組んだことから、貸出残高は計画を上回った。預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	37.28	37.34	<b>36.69</b>	▲ 0.59	▲ 0.65	

## 2) 経営改善支援先割合

(単位:%)

	計画始期の水準	22年9月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)
		計画	実績			
北 洋	2.76	3.13	5.16	+ 2.40	+ 2.03	経営改善計画の策定支援、事業承継(M&A)支援、担保・保証に過度に依存しない融資(私募債、債権流動化等)等に取り組んだことから、計画を上回った。
福 邦	2.71	3.75	7.36	+ 4.65	+ 3.61	担保・保証に過度に依存しない融資(中小零細企業向け無担保ビジネスローン等)、事業再生や経営改善計画の策定支援等の経営改善支援に取り組んだことから、計画を上回った。
南日本	1.04	1.10	1.64	+ 0.60	+ 0.54	担保・保証に過度に依存しない融資(CRDのスコアリングを活用した融資商品)や鹿児島県・市の制度融資を活用した創業・新事業開拓支援等に取り組んだことから、計画を上回った。
みちのく	4.32	4.65	5.13	+ 0.81	+ 0.48	ビジネスマッチング等による販路拡大支援、専担部署による事業再生支援、制度融資等を活用した創業・新事業支援融資等に取り組んだことから、計画を上回った。
きらやか	3.41	3.58	4.94	+ 1.53	+ 1.36	経営改善計画の策定支援、各種コンサルティングやビジネスマッチング、事業再生等に取り組んだことから、計画を上回った。
第 三	0.95	1.03	1.89	+ 0.94	+ 0.86	担保・保証に過度に依存しない融資(コベナンツ活用型融資、ABL等)、早期事業再生支援に取り組んだことから、計画を上回った。
山梨県民 信組	2.04	2.97	3.57	+ 1.53	+ 0.60	個別取組方針の策定による経営改善指導や中小企業団体等と連携した創業・新事業開拓支援に取り組んだことから、計画を上回った。
東 和	3.07	4.14	5.14	+ 2.07	+ 1.00	担保・保証に過度に依存しない融資(ビジネスローン等)、外部専門家等と連携した経営相談、制度融資等を活用した創業・新事業支援向け融資に取り組んだことから、計画を上回った。
高 知	0.72	0.89	1.38	+ 0.66	+ 0.49	経営改善計画の策定支援や信用保証協会の創業・新事業制度融資の積極的な活用に取り組んだことから、計画を上回った。
北 都	4.29	4.48	4.49	+ 0.20	+ 0.01	ビジネスマッチングによる本業支援や経営改善計画の策定支援に取り組んだことから、計画を上回った。
宮崎太陽	0.72	1.85	3.14	+ 2.42	+ 1.29	担保・保証に過度に依存しない融資(個人事業者向けローン等)、信用保証協会の制度融資等を活用した創業・新事業支援向け融資に取り組んだことから、計画を上回った。

# 旧金融機能強化法に基づく経営強化計画の履行状況（平成22年9月期）の概要

## 1. 経営改善の目標

### 1) コア業務純益ROA

（単位：％）

	計画初期 の水準	22年9月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)
		計画	実績			
紀陽	0.65	0.60	0.41	▲ 0.24	▲ 0.19	コア業務純益が貸出金利回の低下等により計画を下回ったことや、預金の増加により総資産が計画を上回ったことから、コア業務純益ROAは計画を下回った。
豊和	0.69	0.69	0.62	▲ 0.07	▲ 0.07	コア業務純益が貸出金利回の低下等により計画を下回ったことから、コア業務純益ROAは計画を下回った。

### 2) 業務粗利益経費率（OHR）

（単位：％）

紀陽	64.13	54.42	52.18	▲ 11.95	▲ 2.24	業務粗利益が国債等債券関係損益の改善により計画を上回ったことから、OHRは計画を下回った。
豊和	49.20	51.74	53.39	+ 4.19	+ 1.65	業務粗利益は国債等債券関係損益の改善等により計画を上回ったものの、営業戦力の増強に伴う営業関連費用等の増加により、OHRは計画を上回った。

### 3) 不良債権比率

（単位：％）

紀陽	3.96	3.76	3.60	▲ 0.36	▲ 0.16	経営改善支援によるランクアップや担保売却等による回収が進捗したことから、不良債権比率は計画を下回った。
豊和	5.06	4.68	3.59	▲ 1.47	▲ 1.09	経営改善支援、企業再生支援によるランクアップやオフバランス化に取り組んだことから、不良債権比率は計画を下回った。

## 2. 中小企業金融の円滑化の目標

### 1) 中小企業向け貸出残高・比率

（単位：億円、％）

紀陽	残高	10,658	10,935	11,051	+ 393	+ 116	支店長による取引先訪問、法人新規開拓室による新規取引先の獲得等に取り組んだことから、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	30.63	30.63	30.79	+ 0.16	+ 0.16	
豊和	残高	1,738	1,790	2,011	+ 273	+ 221	営業体制の再構築（渉外戦力の増強、支店指導役による指導強化等）を進めたことから、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	37.41	37.43	41.85	+ 4.44	+ 4.42	

### 2) 経営改善支援先割合

（単位：％）

紀陽	1.34	1.45	1.78	+ 0.44	+ 0.33	経営相談、事業再生支援、創業・新事業支援に取り組んだことから、計画を上回った。
豊和	2.21	2.90	1.84	▲ 0.37	▲ 1.06	創業・新事業支援等に取り組んだものの、中小零細企業の資金需要の低迷等により、担保・保証に過度に依存しない融資（スコアリングモデルを活用したビジネスローン）が伸び悩んだことから、計画を下回った。